日刊 建設工業新聞 3/9 水曜日 2005年(平成17年)

第16252号 発行所 ©日刊建設工業新聞社 2005 〒105-0021 東京都港区東新橋 2-2-10 電話 03(3433)7151

CVV総会

常に社会と対話を

土木界活性化へ活動展開

谷平幹事長

土木学会関西支部の共同研究グループFCC（フォーラム・シビル・コスモス）OBの土木技術者らで組織する「CVV（シビルベテランズ&ボランティアズ）」（委員長・松井保大阪大学名誉教授、幹事長・谷平勉近畿大学理工学部教授）はこのほど、大阪市北区の大阪市大文化交流センターで04年度総会を開催した＝写真。まちづくりなどの各グループ活動とNPO法人化に向けた検討結果などが報告された。発足から6年目を迎える来年度も各グループ活動を積極的に行い、一層の社会貢献を申し合わせた。

冒頭、谷平幹事長がこの1年の活動を総括。雑誌や専門紙などメディアに取り上げられ、CVVの知名度が高まっていることを報告。自然災害の多発を踏まえ、防災グループの活性化の必要性を指摘。また、FCCの成果であるフォーラム収録本「どぼく・とおく」の精神を後世に伝えていこうと呼びかけた。

続いてアドバイスグループ代表の茂岡一政氏（大阪府OB）が、市民見学会や出前講座、さらに神戸市が進める「土木学校」の支援活動などの実績を報告。まちづくりグループ代表の中尾順二氏（電通OB）は、03年度から始めた「御堂筋研究」の成果を披露。元大阪市長の関一氏が100年後の大阪を見据えて御堂筋を整備した意味を示唆。05年度は、ドイツやフランスの都市再生プロジェクトの成功例を学び、「御堂筋とは何か」を広く社会に提案していく考えを示した。

「NPO法人化検討委員会」の池亀建治委員長（日本PFI協会）は、NPOが基本的にボランティアで、個人でできないことを組織で行うものと定義。CVVそのもののNPO化は、価値観の違いなど課題が多いとし、「部分的NPO化」の可能性を示した。

最後に「5周年記念誌検討委員会」の隅野哲郎氏（大阪ガスOB）が、CVVの歴史を振り返り、諫早湾干拓事業や普賢岳噴火災害の現地視察を行ったことなどを報告。早期に記念誌を発行する考えを示した。

総会後の懇親会で、松井委員長は、各委員会活動の成果を評価するとともに、「土木界の活性化のためには土木技術者一人ひとりが常に社会と対話し、CVVならではの活動を展開することが大事だ」と総括した。